

平成 30 年度 第 1 回学校運営協議会 議事録

1 日 時：平成 30 年 7 月 13 日（金）15 時～16 時 30 分

2 会 場：三国丘高等学校 校長室

3 出席者：

[委員] 田中満公子委員長、今西邦夫委員、坂部弘重委員、西端律子委員、松原英夫委員

[学校側] 小嶋信男校長、高崎克司教頭、三木敬之事務部長、
田中和代首席、恩智理指導教諭、駒井泰之教諭、北出眞理教諭
吉田まちの教諭、稲木悠一教諭、崎谷恵美教諭、幕内涼平教諭

4 次第

- ① 校長挨拶
- ② 会長・副会長（全日制部会）の確認
- ③ 出席者紹介
- ④ 学校協議会実施要綱について

⑤議事

(1) 平成 30 年度学校運営計画について（報告）

（委員）「着任早々、さまざまなことに着手している印象を受けました。特に働き方改革に関して学校現場でもよく考えていると感じました。」

（委員）「働き方改革は難しいテーマであり、建設業界だと経営にとっては大変なハードルである。教職員（公務員）にとっての働き方改革に関してはよく知らないが、同窓会から言えば、三国丘の質は落としてはしくない。教員（公務員）が働き方改革に流されてその質が落ちることを懸念している。それに対して何か工夫できることはありますか。」

（学校）「昨年度まで 4 回実施していた学校説明会を今年度は 1 回減らした。どこまでが効率的で、必要なのを見極めることが働き方改革に必要なことではないかと考えています。教員の仕事は際限のない仕事、生徒が抱える家庭の内部の状況・事情にどこまで関わるのか、補習や講習などもどこまでするのかなど様々あります。教職員間で話し合いを進めながら、現時点で名案はないが、勉強のやり方や効率化などから糸口を探したい。」

（委員）「校長の説明の中にあった“今までの流れを受けつつ、かつ生徒や保護者のニーズを踏まえ、さまざまな取り組みの目的・目当てをしっかりと把握して”という点に大きな覚悟やヒントを感じた。そのあたりはどうですか。」

（学校）「教員は非常に熱心で、ある仕事などにしても“昨年度はどうだったのか、昨年度より良いもの”と取り組んでくださるが、“全て良いものを”というところになると大変になってくる。より目的を明確化していくこと伝えていきたい。」

(2) 各学年の状況について

（委員）「全クラス文理学科になり、今までとの違いはあるか？」

（学校）「本校は今までも文理学科も普通科も特に差をつけずに同じような取り組みが多くなされています。」

（委員）「学年通信などを通して少しでも生徒や保護者と繋がりながら進めていきたいという思いを感じた。」

(3) スーパーグローバルハイスクール(SGH)の今年度の取組について（報告）

（委員）「卒業生の想定を超えるさまざまな分野での活躍は非常にうれしい。今年度が最終の年度ということで総括の時期になってくると思います。」

(4) スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の今年度の取組について（報告）

（委員）SSH に関する講義について、OB・OGの方々が機会を作っていただき、非常にありがたいことと思います。

(5) 平成 30 年度進路結果について（報告）

とくに質疑なし

(6) 平成 31 年度使用教科書選定について（報告）

とくに質疑なし

(7) その他

（委員）「先生の報告が明るいのが頼もしく感じた。2 年生の“ブラ Mikuni”の名称は生徒からの発案ですか。」

（学校）「校外学習委員の生徒がネーミングしました。」

（委員）「その点も含め、生徒が明るく個性的なのは三国の伝統を引き継いでくれているのかなと感じる。また、今回の話題にあがったが、60 を超えた世代から見ると、働き方改革によって欧米化していくことで日本人の良さである勤勉さや勤労観が失われていくことではないかという危惧はある。特に公務員で気になる風潮として“頑張っている先生が叩かれる”という風潮があるように思われる。これはぜひ避けたい。それから、大阪府の府立高校に使われる執行の予算というのは公開されているのか。同窓会から言うと府が PTA や同窓会の頑張りに期待しすぎてはいないか、頼りすぎていないかを感じる。空調などに関しても同窓会が入れた次の年度に予算がついたり、洋式トイレの設置に関しても同窓会が設置した後に、設置され始めていたりという現状がある。もう一つは、府立高校内での高い人気を誇る三国丘高校のその実態を調査・分析してほしい。今の中学生は個人主体で三国を選ぶのか、保護者に言われてなのか、塾に言われてなのか。その実態の調査・分析が可能であれば、実施していただきたい。」

（委員）「予算の執行状況に関しては、府の HP の方に各学校、一人の生徒あたりにどれくらいの予算を使っているかということ公開していたと思います。」

（委員）「学年だよりの量を見ていると小学校・中学校並みになっていると感じた。これらのことから保護者のニーズ・関心が高まっていることがわかる。先ほども話に上がったが、中学生を見ていると保護者の意向や塾の意向が彼らに影響している。今の子どもたちに求められるのは自主・自立ではないか。この高校に来ている生徒はうまく線路に乗かってトップを走ってきた生徒が大半だと思う。その生徒が社会で力を発揮するには、高校で取り組んでくれていると思いますが、“自主的で、自由な発想で”というような力を身に付ける必要があると感じる。働き方改革との兼ね合いは難しいとは思いますが。もう一点、SGH は今年度で終了となり来年は予算がつかないのか。」

（学校）「はい、国からの SGH の予算は終了です。」

（委員）「今の取り組みは規模縮小となるのでしょうか。」

（学校）「このままだとそうなります。」

- (委員)「SGH が国に認定されるにあたって膨大な仕事量があったと思うが、その認定による予算が今までのSGHの取り組みを支えてきた。その予算が無くなって同じことができなくなることは残念です。」
- (委員)「その点は、極力同窓会が支えていきたい。空調やトイレの設置を応援したいのではなく、SGH等の教育の取り組みに関わることを同窓会としては応援したい。」
- (委員)「SGH等の取り組みは、これから必要となってくるような取り組みで、人数の規模を増やして同じことができることが理想だと思います。」
- (委員)「保護者の立場でみて、三国丘高校に入り、子どもたちは部活に勉強に普段の生活と充実して毎日を過ごせていると思います。感謝の一言しかない。」
- (委員)「高校が中学校化しているという話があったが、大学も高校化している風潮がある。また、大学の学生で自己肯定感の低い学生、目標を見失う学生、“自分はどうせできない”というような学生、頑張っずずっと走ってきた結果、大学に来てしんどくなっている学生もいる。そのような現状を高校・大学と繋いで変えていく必要性を感じている。」
- (委員)「大学院で現在勤めており、そこで、一番、授業の内容のキーワードとしてあがるのが“カリキュラムマネジメント”である。学校目標を達成するために学校の持っているリソース（授業、SSH、SGH、GLHS、同窓会、地域の方々など）をどのようにつなげていくかということに取り組み、学んでいる。今日話を聞いていると、働き方改革とカリキュラムマネジメントに繋がりができると省エネだけでなくパワフルな展開・道筋ができてくるような印象を受けました。」